

# コロナ時代の日本と世界： 新たなパラダイムを危機とするか機会とするかを考える



In collaboration with the  
**APRU Population Aging Program Hub**

COVID-19は、世界・国・個人に大きなインパクトを与え、今後、地殻変動ともいえる変化をもたらすと考えられます。コロナ第一波への日本の対応は、その過程で情報基盤の脆弱さや革新と社会実装の遅滞などを明らかにしており、第二波が来る前に、至急強化が図られねばなりません。

本セミナーでは、広範な影響を多面的に解析し、現在の取り組みの紹介にとどまらず、第二波に備えて至急実施すべきこと、コロナ時代の新しい社会を作るため半年程度で実施すべき施策について、各分野から提言をいただきます。

## 開催日時

### 第1回 医療と科学技術

2020年6月17日（水） 17:00-18:30

### 第2回 経済と労働

2020年7月 1日（水） 17:00-18:30

### 第3回 社会と法律

2020年7月15日（水） 17:00-18:30

### 第4回 総括討議

2020年7月29日（水） 17:00-18:30

## 開催方法

Zoom Webinarによるオンライン配信

## 申込方法

下記URLより、お申込みください（4回分）

[https://keio-univ.zoom.us/webinar/register/WN\\_Mks9cByPST-qJmB7Qs5x8w](https://keio-univ.zoom.us/webinar/register/WN_Mks9cByPST-qJmB7Qs5x8w)



17:00-17:15

【開会】 コロナに立ち向かう慶應義塾のグローバルイニシアチブ

第1回～第3回セミナーのまとめ

## 安井 正人

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）所長。医学部教授（薬理学）。

1989年、慶應義塾大学医学部卒業。聖路加国際病院研修医、東京女子医科大学母子総合医療センター助手、スウェーデンカロリンスカ研究所大学院博士課程、米国ジョンスホプキンス大学ポスドク、講師、准教授を経て2006年に義塾医学部薬理学教室の教授に就任。専門は小児科学、薬理学。2018年よりKGRI所長。水チャネル、アクアポリンの研究に従事し、最近ではアルツハイマー病と睡眠の関連性についても研究を進める。国際交流を推進し、グローバルリーダー育成にも力を注いでいる。

17:15-17:45

【特別講演】 感染症有事の準備体制～コロナで見た日本の課題～

## 武見 敬三

参議院議員

1951年11月5日東京都港区生まれ。74年慶應義塾大学法学部政治学科卒業、76年同大学法学研究科修士課程修了。80年東海大学政治経済学部政治学科助手、87年助教授、95年教授就任。同年参議院議員に初当選。現在5期目（東京選挙区）。

84年～87年、テレビ朝日CNNデイウォッチ、モーニングショーのキャスターを務める。公務では外務政務次官、参議院外交防衛委員長、厚生労働副大臣、政務では自民党総務会長代理、参議院自民党政策審議会長を歴任。国連事務総長の下で国連制度改革委員会委員、同じく母子保健改善の為の委員会委員、世界保健機関（WHO）研究開発資金専門家委員会委員を務める。2007年～2009年までハーバード大学公衆衛生大学院研究員。

現在、自民党総務副会長、自民党新型コロナウイルス関連肺炎対策本部顧問、自民党国際保健戦略特別委員会委員長、海洋総合戦略小委員会委員長、世界保健機関（WHO）UHC担当親善大使、日本国際交流センターシニア・フェロー、長崎大学にて客員教授を務める。

講演概要：

未曾有の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応のなかで、日本が平時から対応しておくことが望まれたが対応できていなかった課題が次々と明らかになってきた。例えば、特に国内に注目すると「内閣官房の司令塔機能」「臨床・病理分析・検査・疫学調査・国際連携機能の構築」「有事の感染症専門病院・必要病床の確保」「国と地方自治体の役割分担明確化」「感染症有事の法制」「個人ベース医療情報システム構築」等があげられる。また、国際的な課題に視野を広げると「ワクチンの開発・生産・配分」からは、古典的な途上国と先進国といった考えのもとに構築してきたグローバルヘルス・ガバナンスの限界が明らかになってきている。平時から有事にいかに備えていくのか、教訓をひと時の出来事として終わらせないための何が求められるのか考える。

17:45-18:25

【総括討議】 インターアクティブセッション 日本のアクションアジェンダ

パネリスト：

## 武見 敬三

ご略歴はページ2をご覧ください。

## 葛西 健

世界保健機関（WHO）西太平洋地域事務局長

1990年慶應義塾大学医学部卒業。旧厚生省（現厚生労働省）に入省後、岩手県高度救命救急センターにて勤務。その後、厚生労働省結核感染症課国際感染症専門官、大臣官房国際課課長補佐、宮崎県福祉保健部次長等を歴任。ロンドン大学衛生熱帯医学大学院で修士号を取得。感染症や健康危機管理の専門家としてのWHOでの勤務は15年以上にわたる。2006年WHO西太平洋地域事務局感染症対策課長に着任後、健康危機管理部長を経て、2012年WHOベトナム代表に就任。その後、WHO西太平洋地域事務局次長兼事業統括部長を経て、2018年10月の地域事務局長選挙で当選。

## 岡野 栄之

慶應義塾大学医学部教授／医学研究科委員長

1983年慶應義塾大学医学部卒業、その後大阪大学蛋白質研究所・助手、Johns Hopkins大学医学部・研究員、東京大学医科学研究所・助手を経て、1994年筑波大学基礎医学系・教授、1997年大阪大学医学部・教授、2001年より慶應義塾大学医学部生理学教室・教授。2007～2015年慶應義塾大学医学研究科委員長、2015～2017年慶應義塾大学医学部長、2017年より現職の慶應義塾大学医学研究科委員長を務める。2009年紫綬褒章受章、2014年ベルツ賞受賞。

## 風神 佐知子

慶應義塾大学商学部准教授

慶應義塾大学商学部卒業、慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程単位取得退学、博士（商学）。専門は労働経済学。2014年カリフォルニア大学バークレー校客員研究員。日本労務学会常任理事、人材と競争政策に関する検討会委員、労働経済分析研究会委員、地域活性化雇用創造プロジェクト評価選定委員会委員、今後の若年者雇用に関する研究会委員、国土の長期展望専門委員会委員など歴任。

モデレーター：

## 乗竹 亮治

日本医療政策機構 理事・事務局長/CEO

これまで国際NGOにて、途上国や被災地での防災型医療施設の建設や、途上国政府と民間企業および国際NGOが共同参画する医療アセスメント事業などを実施。慶應義塾大学総合政策学部卒業、オランダ・アムステルダム大学医療人類学修士。政策研究大学院大学客員研究員。

18:25-18:30

【閉会】 まとめ課題リストと優先順位

## 中谷 比呂樹

慶應義塾大学特任教授（グローバルリサーチインスティテュート：KGRI）及び国立大阪大学大学院医学系招聘教授（公衆衛生）。併せて、前世界保健機関（WHO）執行理事会議長、厚生労働省国際参与、（公社）グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）代表理事、環太平洋大学連盟人口高齢化研究ハブ・ディレクターなど様々な公益事業に関与。教職に就く前は、40年にわたり国内外で公衆衛生専門家として活動。2007年3月から2015年5月までWHO本部事務局長補（ADG）。慶應義塾大学医学部卒、医学博士。

# コロナ時代の日本と世界： 新たなパラダイムを危機とするか機会とするかを考える



In collaboration with the  
APRU Population Aging Program Hub

## 第4回 総括討議

2020年7月29日（水） 17:00-18:30

### 開会

17:00-17:15

コロナに立ち向かう慶應義塾のグローバルイニシアチブ  
第1回～第3回セミナーのまとめ  
安井 正人（KGRI所長／慶應義塾大学医学部教授）



### 特別講演

17:15-17:45

感染症有事の準備体制～コロナで見た日本の課題～  
武見 敬三（参議院議員）



### 総括討議

17:45-18:25

インターアクティブセッション 日本のアクションアジェンダ

パネリスト：

武見 敬三（参議院議員）  
葛西 健（WHO西太平洋地域事務局長）  
岡野 栄之（慶應義塾大学医学部教授／KGRI上席所員）  
風神 佐知子（慶應義塾大学商学部准教授）



モデレーター：

乗竹 亮治（日本医療政策機構 理事・事務局長／CEO）



### 閉会

18:25-18:30

まとめと謝辞  
中谷 比呂樹（慶應義塾大学KGRI特任教授）



### 総括討議 （英語）

18:30-19:00

Wrap-up Discussion in English

